

地域とともに 追分高等学校

全国的な少子化のなかで北海道教育委員会は道立追分高等学校を含めた適正配置計画の検討を進めています。

北海道の「公立高等学校配置計画」により平成22年度から1学年1間口に縮小になった追分高校の生徒数は、4クラス121名(定員160名・4月現在)となっていて高等学校進学希望者に見合った定員確保を基本としている配置計画の趣旨を考えると樂觀視はできない状況です。

しかし数値的な確保だけの活動ではなく、町は学校・行政・民間団体との連携を強めながら、高校の教育活動の充実や町の支援対策から、高校の魅力を増やして理解してもらうことが学校存続に繋がるため、多様な取り組みを推進しています。

町とともに取り組むテーマ 教育活動の充実

○外国語指導助手派遣

英語講師派遣事業として68万円を予算計上。

○学社融合推進事業

町では学校と社会教育だけに限らず、町内の教育関係機関や団体、「学社融合推進連絡会議」、「安平町学校支援地域本部」の設置を行い事業の充実・推進を図っています。

その中には追分高等学校から町内の子どもたちに教育の魅力を伝える機会を設けています。

陽光苑での介護体験



注目!

安平町が行う追分高等学校生への補助について

安平町では、追分高等学校の活動に対しての補助や協力を今までも行っていました。が、本年度、町内から進学する生徒を対象に次のような優遇策を講じています。

○就学費援助

学校諸納金や学年会費等のうち、3分の1(13,000円)を就学費の一部援助として、町内から通学する生徒全員を対象に補助しています。

○通学費援助

JR利用による通学者に対して通学定期券代金の3分の1

の補助をはじめ、町内から通学する生徒は全員対象になります。

そのほか、各種全道・全国大会の参加者に補助を行うとともに、情報処理検定や漢字検定



危険物管理者資格、ホームヘルパー資格等の各種検定の半額補助も行っています。

また、奨学資金給付事業(安平町育英基金奨学金、公益基金元谷正義記念館追分奨学基金)等についても配慮しています。

—学社融合事業の推進—

7月12日追分公民館を会場に開かれた2年生の授業は、一般の方も参加ができるよう家庭教育・子育て支援を呼びかけて講演会を行いました。

昨年度も実施されたこの講演会は、子どもから大人まで学べる機会となり多くの参加を得て実施されています。

長期休業期間中は、高校の先生と生徒による「どきどきサイエンス教室」を開催し、小学生と科学の実験を通じて学習の機会を設けます。このように地域の高校が発信する楽しさや素晴らしさが伝わることで子どもたちの進路選択肢の一つになる期待が込められています。



『変革』から『復活』へ

昨年、日程や内容の見直しなど「変革」を行った学校祭は、今年は震災復興への想いを込めて『復活』となりました。

7月22・23日の日程で行われた追高祭の初日は、山車行列が追分市街をねり歩き、ふれあいセンターい・ぶ・き前の駐車場でクラス発表のPRを行いました。

翌日にはクラス縁日や発表会などのメニューを揃えてPTAバザー「母ちゃん食堂」や自衛隊の演奏会などが『復活』を望む追高祭を盛り上げました。

